

平成28年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493000101	事業の開始年月日	平成21年4月16日
		指定年月日	平成21年4月16日
法人名	社会福祉法人プレマ会		
事業所名	社会福祉法人プレマ会 そよ風		
所在地	(242-0028) 神奈川県大和市桜森3丁目4番4号		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成28年10月15日	評価結果 市町村受理日	平成29年3月15日

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?0pen>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・そよ風はこの地域において、運営8年目を迎えております。運営初年度から参加をしておりました自治会の行事や会議へ、今年も積極的に参加をさせていただいております。その中で参加ご利用者や職員へ、地域の方々から有りがたいお言葉をいただく機会も増えており、ご近所とのお付き合いも深くなっていると確信を持っております。

・地域の商店から仕入れた食材を活かし、日々皆様に美味しく召し上がっていただけるよう、食事に工夫をしております。

・年間を通して、外食イベントやドライブイベントを企画しております。また日々のちょっとした散歩等での外気に触れる事も大切にしております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成28年11月24日	評価機関 評価決定日	平成29年2月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は相鉄線「相模大塚駅」から徒歩5分です。近くにスーパー、神社があり、自然豊かでありながら生活に便利な場所です。同じ建物内に保育園があり、天気の良い日は庭で遊ぶ園児の声が入居者まで届き、元気をもらっています。

<優れている点>

ホーム長は法人代表を尊敬し、いろいろな取り組みを認めてくれると感謝しています。職員はホーム長を尊敬し、全体の雰囲気明るく前向きです。法人代表は職員の学びたいという気持ちを受け止め、職員はそれに応え、学習心旺盛です。法人内の他の部署の経験もできるなど、職員を育てる姿勢があります。正職員が多く、定着率も良好です。地域関係にも配慮し、食材は近隣の商店から配達してもらい、その際の挨拶、季節ごとの食材についてなど、触れ合いを大切にしています。

<工夫点>

ホーム長は、市への報告や介護保険の区分変更などの折にも、電話やFAXでなく、直接窓口まで出向き、こまめに顔出しをすることで啓蒙や集客につなげています。職員側から出た意見はユニット全員で話し合い、早朝出勤体制を職員が作り上げるなど、自主的な意見や行動を尊重しています。家にいる利用者の家族の「今から行くのでお化粧をして待っていて」の声に、ほっこりとした雰囲気が漂っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	社会福祉法人プレマ会 そよ風
ユニット名	2階 さくらユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	現在の施設に合った理念を作り直し、年度初めには理念に沿ったユニットの目標を立てています。	開設当初の理念を、職員全員で意見を出し合い、2年前に作り直しました。日々の介護で「ずれ」を感じた時は「自分たちで作った理念」に沿っているかどうか、その都度振り返っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	保育園との交流を年4回実施。園児を招待し楽しまれています。地域の祭り、神社の祭りに参加しています。	自治会に加入しています。ホーム長は車いすの利用者と自治会のお話会に出席しています。本格的な歌謡曲ボランティア、近所の人の犬を連れての訪問、週に一度の音楽療法、保育園児との触れ合いがあります。専門学校の実習生を受け入れています	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	専門学校等の実習生を受け入れ、認知症への理解と支援を実際に見て、体験していただいています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ご利用者や職員も出席をし、最近の様子を含め、報告や質問に答えています。	自治会長や老人会会長、社会福祉協議会職員、民生委員、市職員、法人理事長、常務など多彩な顔触れです。地域の情報や制度面での情報交換や、他の施設を見てきた話、民生委員の話などもあります。家族には内容の報告をしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議や認定調査の機会に、ご利用者の最近の様子を伝えています。また市からの情報もスタッフ間で共有しています。	グループホーム連絡会に市職員が出席し、話し合う機会があります。ホーム長は介護保険の区分変更、運営推進会議の報告などをFAXで済ませずに、窓口届け、直接挨拶しています。老人保健施設からの問い合わせにも出向き、対面で相談に応じています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	そよ風からも、法人内の身体拘束委員会に出席しています。 毎月のユニット会議に事例を挙げ、意見交換を実施しています。	職員は利用者のために最善な方法を探るため、納得するまで話し合っています。例として、椅子からの立ち座りに不安のある利用者をソファに座らせることの良し悪しについても検討しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内虐待防止委員会に出席をし、勉強会を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度についての理解が、職員の中で十分とは言えない状況であります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が丁寧に説明をしています。 契約、解約または改定時、事前に管理者が説明を行っている為、職員に質問される事は殆どありません。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族には手紙にて近況をお伝えし、訪問時には積極的に話をする機会を作っています。ご家族の意見は、些細な事でもスタッフ間で共有するよう努めています。	家族が訪問しやすい雰囲気作りに配慮しています。家族は「こういうケアをしてほしい」「年間行事を知らせて」など、直接意見を言ってくれます。リビングに作品を貼ることで、利用者や家族の笑顔を引き出しているのも意見の反映の一つです。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見や提案を聞く機会を設けてもらっています。	朝出勤を1時間早めたい、という意見に「ユニット全員が応じられればよし」とし、早朝出勤体制を2F職員が作っています。法人主催で介護技術を学ぶ会があり、職員は熱意をもって学んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格取得など、向上心を持って働いています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部・外部研修へ参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	毎日忙しい為、なかなか交流できていません。 機会を作って行きたいです。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	安心して生活をしていただけるよう努力しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の信頼を得る事は大切な事なので、努力をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人・ご家族の不安を無くし、安心して生活していただくことに努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人の出来る事を見つけています。洗濯物たたみ等していただいて、家庭での生活と変わらない事を感じて欲しいと思います。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人の誕生日会等にご家族も来ていただき、一緒にお食事をしていただき、ご利用者・ご家族共に安心をしていただいています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方には、ご本人が一番リラックス出来る時間帯に来ていただくよう工夫をしています。	老人会で一緒だった人が会いに来てくれる例があります。家に帰りたい、とう利用者にはホーム長が家まで送り、近所の人が集まって茶話会をし、満足してホームに戻っています。今まで通院していたクリニックで、仲良しと出会う例もあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人のご利用者が他のご利用者に声掛けしたところ、返事をしないと怒鳴られる方がいる為、その都度説明をしています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了した後も、遊びに来ていただいたり関係性を大切にしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人に話を聞いたり、わからない時にはご家族に聞くなどして暮らしを支援しています。	自分から意見や要望が出るのは難しいので、職員から持ちかけ、笑顔や、うなづく姿で判断します。テレビをみて「これ食べたい？」と聞いたり、新聞を読む人にニュースを聞くなどしています。職員は利用者に向き合う姿勢で、日々取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族に聞いて生活を支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご利用者が出来る事は取り組んでいたが、出来ないところをお手伝いさせていただきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご利用者をモニタリングして、変化を見つけ介護を変えています。	月に1度のユニット会議で利用者一人ずつの様子を確認しています。ケアプランは職員全員の意見を反映した内容となっています。職員は介護職員としての視点を重視して、ケアプランに盛り込むようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ご利用者の日常などを記録し、全員で共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人に合ったサービスを提供しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ドッグセラピー、歌や楽器のボランティアに来所いただき、ご利用者に喜ばれています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族が同行できない時は、職員が同行しています。	24時間の往診体制と内科、整形外科、泌尿器科、緩和ケア科などがある協力医療機関から月2回、歯科医が週1回の往診があります。受診内容についてはその都度、家族に電話連絡しています。個人契約で、硬縮予防の訪問マッサージも受けられます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期的に往診があり、血液検査等で健康面に変わりがないかと診ていただいています。 またお変わりがあったとき等は連絡をし、指導を仰いでいます。職場内でも対応を状況によって話し合っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院などによるダメージの回復を計り、また状況を把握し、医療機関や家族との情報交換を大切にしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	その時々状態により、ご本人・ご家族の意向を聞き、医療機関と相談しながら取り組んでいます。	看取りについて経験があります。重度化し本人や家族が看取りを希望する場合は、協力医指導のもと、職員、家族で、出来ること出来ないこと、やってはいけないこと、今後どうなるかについて勉強し、話し合っています。安心感を持ってもらうよう対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時のマニュアルを読んでいます。また体験者による対応の在り方等を聞き備えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルでの確認と、定期の避難訓練を行っています。地域とも関わりを大切にし、運営推進委員会等で情報交換をしています。	夜間想定を含めた消防避難訓練を年2回行っています。非常時のマニュアルと訓練実施要領があり、業務範囲を決めています。自主検査チェック表で定期的に対策の状況を点検しています。水と食料については備蓄があり、リストを作成しています。	消防避難訓練については地域の参加を得た訓練が期待されます。備蓄品については地震や停電も考慮し、水と食料およびそれ以外の装備品を3日以上備えることが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご本人の意向を否定せず、まずは傾聴し不安にさせないようにしています。また言葉掛けにも気をつけており、場合によってはご家族からの情報収集も行っています。	人権や個人情報保護について年2回研修をしています。トイレの声掛けを必要以上にしないこと、否定語を使用しないこと、利用者の化粧など身だしなみを大切にすることなどに留意しています。毎月の全体会議やユニット会議で不適切な対応を話題にしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご理解しやすい言葉掛けにより答えを導いています。話の出来ない方には表情や行動から読み取る努力をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの体調やその時の気持ちやペース等を考慮し、伺いを立てたり尋ねたりしながら支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみに気を付け、汚れの無い清潔を心掛けています。個々に合わせたスタイルを心掛けて支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食の好みを把握し、状態にあった形態を提案したり、楽しんでもらえるような話をしています。	食事は元気のバロメーターとして大切にしています。利用者の好みや体調を把握しながら職員がメニューを考え、調理しています。食材は地元の八百屋、パン屋などにユニット入口まで来てもらって購入し、生活感を楽しんでいます。誕生日には好きなものが食べられます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	各ご利用者に合わせた形状での食事を提供し、食事介助の有無と摂取量を記録しています。水分をなかなかお取りにならない方へは、声掛けをし摂取を促しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自力で歯磨きができる方はご自身で行っていただき、その後残渣がないか確認しています。自力での歯磨きが難しい方には、毎食後介助させていただいています。また毎晩の義歯洗浄も実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄が可能な方は、トイレで排泄をしていただいています。歩行に介助が必要な方には、声掛けにて便意や尿意の有無を確認し、トイレへ誘導させていただいています。	1人ひとりの排泄パターンを記録から把握し、座位が取れる場合は声掛け誘導でトイレでの排泄を基本に支援しています。パッド使用はその種類について、利用者ごとにユニット会議で話合っています。オムツ利用は家族と話し合い、使用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取状況や排便状況を記録して、各ご利用者の状態を把握しています。便秘が続いておられる方へは、医療機関に連絡確認をし、下剤の服薬をしていただいています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴予定表を基に、その日の入浴を実施。拒否があった場合や、その他の理由により入浴が出来ない場合は、後日に改めて入浴をしていただけるよう配慮しています。出来る限りご自身で身体を洗っていただき、その他は介助をさせていただきます。	原則週2回の入浴と状況に応じた清拭をしています。健康と衛生面を考えて足浴を毎日行っています。入浴時間は午前または午後で、希望に応じて夕方についても対応しています。入浴剤を入れて温泉気分を楽しむこともしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜間の睡眠時は一時間に一回以上の訪室を行い、室温や姿勢を確認しています。 ご自身で寝返りを打てない方へは、体位交換を二時間おきを実施しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	各ご利用者様ごとに使用しておられるお薬の情報がファイルしており、新しく処方された後は、生活の様子や副作用と思われる症状の有無を医師に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ボランティアの方に来ていただき、ドッグセラピーや毎週の音楽クラブを実施しています。誕生日の方が居られる月には誕生会を開き、楽しんでいただいています。 また日常において、洗濯物や掃除等を一緒に行っていただいています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご本人からの外出希望は少なく、天気等を見ながら近隣への散歩を実施しています。 また近所での催し物への参加もしていただいています。	週に1度以上散歩に行きます。近所の店への買物、近くの法人施設へ体重測定に行くことなど、ちょっとした外出の機会をつくることを大切にしています。レストランでの外食、近くの花見、公園などへの外出イベントを年2回楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の所持が可能な方にはお持ちいただいておりますが、難しい方が多く、殆どのご利用者に金銭所持はしていただいております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族の意向もあり、ご利用者の電話利用は控えているが、手紙等は職員からの声掛けを行うと共に、希望に応じて出せるようにしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビング家具の配置等は、ご利用者の生活習慣や体調を考慮し、また不快感を招く事がないよう工夫をしています。	木目調の落ち着いた家庭的な雰囲気となっています。リビング兼食堂は広く、食事テーブルとテレビを見るソファのコーナーに分かれ、自由に時間を過ごせる配置となっています。南側に日当たりが良い広いベランダがあり、プランターでミニトマトを栽培したり外気浴を楽しむことが出来ます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	時折ご利用者同士で強い口調での言い合いが聞かれます。ソファを横並びにする事で一人で過ごされたりお隣同士で談笑されたりと、寛げるスペースを作れるよう工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族と相談しながら、以前より使用されている寝具やタンス、写真等をお持ちいただき、無造作にならないよう努めています。	ベット、椅子、エアコン、クローゼット、カーテン、照明が備え付けの洋室となっています。各階にトイレ付居室が2部屋あります。使い慣れた鏡台、タンスなどを持ち込み、家族の写真を飾っています。入口にフォトフレームがあり、好きな写真やカードを表示しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご利用者の身体状況等に合わせて、環境整備に努めています。状況・状態が変わり、混乱等が見られた際はその都度原因を職員で話し合い、改善に取り組んでいます。		

事業所名	社会福祉法人プレマ会 そよ風
ユニット名	3階 けやきユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ケアプラン・ケアの組み立ては、理念を意識して作り上げています。理念の実現を身近に感じながら、取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	定期的に地域の方やボランティアが訪れ、ご利用者と関わる機会があります。保育園児との交流があり、ふれ合い楽しんでいらっしやいます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症サポートキャラバン等、今後の取り組み課題としてゆきたいと思えます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度、そよ風の取り組みや現状などをお伝えしています。地域の情報や、ケアのアドバイスを客観的な視点から提案を受けており、サービスの向上に繋げています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいます。	運営推進会議の場で、ユニットの状況を細かく伝えていきます。アドバイスや注意情報等も市町村から提供を受けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束については、法人研修やユニット会議の場で理解を深めています。 実際のケアの場面では、スタッフ間でグレーな部分も含めて、適切なケアの提供が行われているか確認をしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人研修では人権を学び、ユニット会議においても一つひとつを丁寧に話し合い、虐待の予防に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度をご利用されているご家族の支援を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には重要事項を説明し、ご納得の上で契約を締結しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会の設置はありませんが、ご家族の意見は訪問時に詳細に伺うようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議や、報告・連絡・相談の形で連携が取れています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	シフトに影響が出ない範囲でのワークライフバランスを心掛け、休憩室の設置などリフレッシュ出来る環境整備を行いました。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修の受講や社内の介護技術研修への参加等、学ぶ機会を持っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部研修などの繋がりを大切にし、相互の施設を訪問するなどの取組みを行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談や情報だけではなく、ご本人と向き合い可能な限り対話を行うことで、ご本人との関係作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面談を重ねる事で、信頼関係を構築するよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホームの入居が、ご本人やご家族にとって適しているのかどうか、十分な話し合いを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご利用者はお客様ですが、暮らしを共にするという、支えあう関係を大切にしています。 私たちは、ご利用者に寄り添うケアを目指しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	訪問時には必ず「最近の様子」をお伝えしています。 食事中の様子やレクリエーション、行事と一緒に参加をさせていただいております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご利用者のご友人等が訪問された時には、ゆっくりと寛げる時間を過ごしていただけるように、場所などの手配を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	面倒見の良い方がいらして「この人トイレに行きたいらしいよ。」等他の方の情報を教えていただく事もあります。その時はお礼の言葉をお伝えし、トイレに行かれた方にも「教えて下さったのですよ。」とお伝えしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	亡くなられた方のご家族が、時々ご自宅で取れた果物を持ってきて下さりました。その時には、寂しくなっていないか、お体は大丈夫か等、ご家族の心配をしながら、少しの時間思い出を語り合っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	身体的に会話が少ない方は、何をしたいのかを伺ったり、したくない時の態度などでその方の意向を大事にしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	新しくユニットに来られたときに、まず好み等一つひとつ伺い、確認をしながら介助をさせていただいています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	散歩がお好きな方には、時間を作り外出していただいています。家事が上手な方がお手伝いをして下さった時には、「ありがとうございます。」とお礼をしっかりと伝えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご利用者が生活する上で、不具合がある時には、ユニット会議等で話し合い、職員同士で色々と試しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	申し送りの他に、仕事をしながら気付いた事を伝え合っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	誕生会等で、普段はユニットの中でしている事でもご利用者が喜んでくれるものは、色々と計画をし、外出等もしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の例大祭、夏祭り、盆踊りに参加をしています。またドッグセラピー、ウクレレ演奏、歌の会等のボランティアの方々の力を借りて、ご利用者の楽しみに繋げています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	日々の身体変化に気をつけ、小さな事の受診でもご家族が訪問された時には内容をお伝えし、安心をしていただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	些細な変化でも看護師に伝え、指示を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先での状態を記録に残し、職員全員が把握出来る様にしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	早い段階で今後のあり方や施設で出来る事を、ご家族と話すようにしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	早急な看護師への連絡は徹底しているが、応急手当や初期対応の訓練は行えていません。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に避難訓練を行い、ご利用者にも参加をしていただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	それぞれの利用者に適した言葉を選び、声掛けを行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	食事の際等に、ご利用者の好みを考え自己決定していただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務優先傾向にあるが、ご利用者の趣向を考え、暮していただくよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	服装やお化粧品等、ご利用者の希望に合うよう努めています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	簡単な準備は手伝っていただいています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個人の好みに合わせた食事形態にし、ご自身で食べやすい器で提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	一目でご自身の物と分かる様にカップにまとめ、支援が必要な場合ブラシの形状も検討しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンを記録で共有し、一人ひとりに合った支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事内容や排泄のタイミングを考慮し、便秘への工夫を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴を楽しむことができるよう、時間にゆとりが出来るように工夫をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	安眠が出来るよう、ご自身やご家族が用意した寝具で休まれています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人ファイルをチェックし、服薬の支援と確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの生活を大切に思い、楽しむ時間を過ごせる様支援をしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出イベントの企画をし、楽しんでいただけるよう支援をしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりに合わせたお金の所持と使うことへの支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	お手紙をいただくことがあります。ご本人にお渡ししています。話題のきっかけになりそうな時は、お手紙についてお話を広げてゆきます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	トイレには分かりやすくしています。リビングや食堂に花を添えるなど、温かみのある空間作りを意識しています。季節にちなんだ貼り絵やこいのぼりを壁に貼り、楽しんでいただいています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ベランダの窓や景色の良い場所に椅子を置き、寛ぐスペースを確保しています。また自由に行き来していただき、一人ひとりのペースで生活なさっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具・テレビや机等、室内に設けていただいています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	お一人おひとりの能力や、個別に配慮すべき点等を十分に理解しながら、生活空間について環境を作り上げています。		

平成28年度

目標達成計画

事業所名 社会福祉法人プレマ会そよ風

作成日： 平成 29年 3月 1日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	自分達の介護に疑問を持った際に、立ち止まり、振り返られる為に掲げた「そよ風理念」。実際に当てはめられる介護が日々展開されているのか、また職員への周知が徹底されているのか疑問を感じている。	職員一人ひとりが再度理念に意識を持って行動していく。 日々の業務から、個別介助への意識が薄れてしまう際は、ユニット職員全員で理念に基づき振り返られるようにしていく。	<ul style="list-style-type: none"> 各ユニット会議にて、現状の職員がどれだけ理解をしているかを確認していく。 何故実践出来ないのかも検討していく。 必要であれば、29年度所属職員で作り直す事も可能にしていく。 	12ヶ月
		今回外部評価において、ご家族アンケート内で「ゆったり穏やかに過ごされている空間」とのご意見等をいただけたが、29年度新しい人員配置となっても、同じ質を展開出来ていかなければならない。			ヶ月
2	11	協力医療機関が10月より新しくなり、現在のご利用者の健康管理を実施してもらっている。以前の医療機関との体制の違いもあり、ご家族の中にはまだ戸惑いを感じられている方も見られる。その中で、そよ風職員として取り持つ技量が必要とされている。	ご家族に、そよ風における健康管理に安心していただける体制を整えていく。 どの職員も医療との連携が取れるよう質の向上に努めていく。	<ul style="list-style-type: none"> そよ風からご家族・医療機関への報告・連絡・相談を徹底していく。 ご利用者の状況が、医療機関へ正確に伝わるよう日々の申送り法を確立していく。 ご家族面会時や電話対応の職員コミュニケーション能力を向上させていく。 	12ヶ月
					ヶ月
					ヶ月